

学校だより

11月号

# 一中の桜並木

令和6年11月13日

「教育目標」

考える人 思いやりのある人  
助け合う人 成しとげる人



連雀学園三鷹市立第一中学校

校長 宮城 洋之



## 進路を考えるとということ

校長 宮城 洋之

中学校卒業後の自分の進路を考えること。それは中学生活3年間を通しての大きなテーマの一つと言ってもよいでしょう。ひとことで「進路」といっても2つの段階があり、一つは自分の適性や興味・関心、価値観、目標などを模索しながら進路を「選択」するまでの段階、もう一つは選択した進路に進むために試験を受けたり手続きをしたりするなど、進路を「決定」する段階です。こう考えると「選択」の段階は1年生から始まっており、3年生は、今、その最終局面を迎えていることになります。

☆ ☆ ☆

ずいぶん昔の話ですが、私が高校受験を経験したのはある地方都市でした。その地域では公立高校の数が少ないうえに、一部の伝統校に人気集中してしまうため、毎年苛烈な高校受験が繰り返られていました。東京などとは違って私立高校はほぼありませんので、多くの中学生は併願なしで公立高校1回だけの受験だったのです。その結果、毎年相当な人数の「高校受験浪人」が生まれました。大学受験ではなく高校受験の話です。今では考えられませんが翌年のリベンジ受験を目指す浪人生のための専門の予備校まであったのです。「日本で最も過酷な高校受験」……その頃、全国紙に連載されていた学校教育関係のコラムではそのように紹介されました。

ただ、一つだけ良かった(?)ことがあります。それは進路選択で迷ったり悩んだりすることがなかったということ。選択肢がほぼないので悩みようがなかったのです。

☆ ☆ ☆

高校受験ひとつとっても東京都には180校以上の都立高校、230校以上の私立高校があります。これ以外にも他県の私立高校も受験できますし、専門的な勉強ができる学校、オンラインを活用した新しい形の学校など実に様々です。でも、それだけ多種多様な選択肢の中から最終的には一つを決定することになるのです。ですから、現代の東京で中学校卒業後の進路を考えると「選択する」ということの難しさに直面するということでもあります。そして、それは選択の基準になる自分自身をあらためて問い直すことにもなるのです。

選択で悩むことがなかった半面、私は高校で自分が何をしたいのかすら考えたことがなかったように思います。今振り返ると、そのために高校3年間をずいぶん無駄遣いしていたような気がします。

☆ ☆ ☆

3年生の皆さんはこの数か月間で選択の難しさを感じた人も多かったのではないのでしょうか。そして1,2年生の皆さんも「先の話」ではなく、進路選択期の只中にいます。今学期に実施した「職業人の話を聞く会」や「職場体験」も、実は皆さんが適性や興味・関心、価値観、目標など自分自身のことを考えるきっかけになるように計画されたものです。来月には全学年の三者面談も予定されていますので、3年生に限らず、この機会に自分自身と進路について考えてみませんか。